

「貞山運河再生・復興ビジョン(案)」に対する意見提出手続き(パブリックコメント)の結果と御意見に対する県の考え方

●景観に関する御意見

意見者	御意見	対応
60代・男	「美しい復興を目指す」 景観についての記述はあるが、さらに「美しい復興」であること目指して欲しい。400年を超えて自然と人工の調和した景観を伝えてきた貞山運河を「復興のシンボル」として世界に向かって誇るのであれば、堤防の問題も含め、景観上美しくなければ意味がない。水質の改善に付いても、第二貞山運河による「農業排水路」からの脱却なども含め抜本的改善策を計画すべきだと思う。	ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にし、運河群にふさわしい景観の形成に努めてまいります。
60代・男	魅力ある河川風景の創出 水面(船などから)目線での川面や陸側の風景から見たとき、貞山運河は心に安らぎを与える一面、単調で変化が少なく子供などはすぐ飽きてしまう面もあります。干潮河川の水辺で生育する在来植物の復活育成や川から見えるような自然豊かな植栽の工夫を考え、各地域で特色ある変化に富んだ水辺の創出を図ってはどうでしょうか。	ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にし、魅力的な景観や水辺の創出に努めてまいります。
団体	貞山運河の再生・復興に当たって、堤防の建設、防風林や桜の植林等が検討されていますが、これらは貞山運河沿川の景観に多大な影響を与える可能性があります。貞山運河の景観は49km 全域にわたって調和のとれた真に美しいものでなければなりません。そのような景観を実現するためには、景観学や景観工学の知見を応用する必要がありますので、この点もビジョンに含めていただきたい。また、P11に「桜等の植樹」とありますが、沿川のどの地域を想定しているのか、具体的な地域と理由を明確にしていきたい。加えて、貞山運河沿川の全体に生息しているクロマツが貞山運河の景観にふさわしいと考えますので、具体的にビジョンに提示いただきたい。	運河にふさわしい景観の形成は、御意見の通り重要であると認識していることから、その基本的な考え方をビジョンに盛り込んでいるところです。 なお、具体的な景観の復元や創出については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にし、今後検討してまいります。
団体	第3章・第1節・第1項(1)にある景観例には、単純に一律それを設けるのではなく、地域に合わせて柔軟に構造を変えるなど、生態系の生物多様性に配慮する事が求められます。この設計には是非専門の研究者を交えた有識者の意見を踏まえたものであることが望ましいと考えます。	具体的な景観の復元や創出については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にし、今後検討してまいります。

●遺構の復元に関する御意見

意見者	御意見	対応
60代・男	貞山運河全川の復元(災害復旧とは別であるが) 仙台港の開削・造成で消失した一部の運河を何らかの形で復元するなり、その痕跡を後世に残す(公園や緑道でもよい、すでに民間に売却してある部分については開発緑地に認め、協力を依頼するなど)を検討し、全川を何らかの形で繋げる工夫と努力をしていただきたい。	復元に向けた社会的な機運の高まりの状況を踏まえて、関係機関と連携してまいります。
団体	貞山運河とそれに関わる歴史遺産が粗末に扱われてきた事実があります。たとえば、仙台港の建設に当たって、御舟入堀の2.6km が埋め立てられ、貴重な歴史遺産の一部が失われました。このため御舟入堀から松島湾へ抜ける水路が閉ざされました。また、石井閘門の上に道路が敷設されています。このため石井閘門の歴史的遺産としての価値が損なわれていると同時に、マストの高い船が通過できないなど機能も低下しています。御舟入堀の埋め立てられた箇所と、石井閘門上の道路の撤去を、ビジョンの緊急重点事項の1つに加えていただきたい。 同じく重要な歴史遺産である野蒜築港遺跡は、津波で大きな被害を受けました。この復元も重点事項に入れていただきたい。野蒜築港遺跡は観光資源としても極めて有望であり、津波で破壊された野蒜築港資料室の復元と合わせて観光資源として活用するための対策を検討しビジョンに記述していただきたい。 P13に『遺構の復元には様々な課題がありますが、本ビジョンの取組が進むことにより、官民連携による復元に向けた社会的な機運の高まりを期待し、関係機関と連携してまいります。』と記載されていますが、気運を待っているだけでは遅すぎると感じます。喫緊の課題としてビジョンに提示いただきたい。	復元に向けた社会的な機運の高まりの状況を踏まえて、関係機関と連携してまいります。
団体	蒲生地区の貞山運河の復元。 現在蒲生地区では運河が暗渠化しています。これを昔の姿に掘り起こし、再生させる事で歴史と減災そして、近年急速に進む生物種の絶滅への回避・避難場所の拡大。また何より地域に自然と暮らしの共生を作り出し、震災後コンクリート構造物で殺伐とした沿岸部の景観にあって、自然豊かな暖かな場所を提供する事で、シンボルとしての価値を高め豊かな宮城のPRにも繋がると考えています。	復元に向けた社会的な機運の高まりの状況を踏まえて、関係機関と連携してまいります。

●防災に関する御意見

意見者	御意見	対応
60代・男	「ソフト的防災を優先する」 全体に総花的ビジョン。具体的な次の一手が見えない。具体的な事業は、専門部会で決めてしまい、計画の段階では外に見せない手法に見えてしまう。徹底的な情報公開が素晴らしい社会的成果を生む。 ・ハード的な防災は必ず限界があるので、堤防等は最低限の高さにする。コンクリートはわずか数十年で劣化し、一定の高さを超える津波には役に立たない。何よりも高い堤防類は、消波ブロックが「醜い」ように、目障りで「美しい」。 ・「今なら堤防建設に予算がつく」というのは、悲しくも情けない理由でしかない。歴史・産業遺産を復興させるには、目先の予算よりも「情熱と知恵と工夫と国際的連帯」による再生がふさわしい。時間をかけて30年後に新しい「世界遺産」を自分たちで作り上げるくらいの思いが必要だと思う。 ・ソフト的防災の最先端を目指す。海辺にいる人に避難の必要性と避難場所を知らせ、安全に誘導する、その「世界最先端のシステム」を作り上げる。(緊急避難スポット、避難誘導・警報システム、誘導看板等)	本ビジョンは、復興において目標とする姿や、それを実現するための仕組みについて示したものです。具体的な事業については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で検討し、実施してまいります。 津波防災への御意見については、県では復興まちづくり計画の中で、避難を主軸としたソフト施策とハード整備を組み合わせた「多重防御」を基本として取り組んでいます。

団体	津波を意識した防災に対する方策が記述されています。しかし、津波に対してはまず避難することが肝要であり、そのためには十分な避難道路を敷設する必要がありますが、この点に関する検討と記述が不十分と思われる。避難道路はたとえば、貞山運河の内陸側沿川に並行する形で造り、その避難道路から内陸に向かう避難道路を適当な間隔で設けるのが1つの案だと思います。内陸に向かう各避難道路の始点には、緊急避難のための施設を設けるのがよいと思います。なお、並行する避難道路には、多くの津波警報設備を配備する必要があります。	具体的な避難計画については、今後津波防災復興まちづくり計画に基づく地域防災計画の中で位置づけられるものと考えておりますが、早期避難の観点について、御意見を踏まえて記載内容を修正しました。
60代・男	<p><雨水排水施設としての貞山運河></p> <p>津波災害の印象が強く“防災”というと津波を思い浮かべがちだが、貞山運河にとっては“雨水排水”、大雨時の洪水を防ぐ機能が重要だ。荒浜では震災前から大雨の際貞山運河に排水できず沿線の住宅がたびたび浸水していた。仙台市の沿岸部一帯が災害危険区域に指定され住居の建築が禁止されたとはいっても無人の地になる訳ではない。これからはきちんと雨水排水機能を確保するよう配慮願いたい。</p> <p>その際、今回の津波の後、荒浜の海岸部に出現した“水路”に注目してほしい。津波の引波によって砂浜がえぐられて、荒浜集落の北側に貞山運河から海に直結する水路が出現した。これは、貞山運河が造られる明治以前にあった“赤浜堀”という名の水路の河口が再現されたものである。</p> <p>震災前の仙台平野の雨水排水は広い仙台平野の雨水が全て貞山運河で受止められ、北の七北田川、南の名取川、2つの河川の河口経由で海に放流されてきた。これはかなり無理があり、その結果、荒浜や南蒲生での排水不良・浸水という形で現われていた。たまたま昨年津波後の強い引波によって強引に作られてしまったとはいえ、自然の法則から言えばむしろそちらの方が“自然”な形の“仙台平野中央部から直接海に向かう流れ”に注目すべきだ。</p> <p>今後貞山運河に設けられる水門によって荒浜地区の排水が遮断されてしまう危険性もあるという。</p> <p>現在県と仙台市とで雨水排水計画について調整中と聞く。七北田川・名取川のほか第3の排水先、昔の“赤浜堀”のように、仙台平野を横切る貞山運河の中央部から海に直結する排水路について考慮願いたい。</p>	御意見の荒浜地区を含む仙台東部地区の雨水排水計画については、浸水被害の解消に向けて、国、県、市等の関係機関が連携して取り組んでおり、新たな排水計画に基づく復旧事業が進められています。

●環境に関する御意見

意見者	御意見	対応
団体	貞山運河の利活用に際しては、運河の水そのものを活用するという視点を取り入れていただきたい。貞山運河の水は海や河川と違って、汽水であり、波や流れが少なく穏やかであり、風雨などの自然現象の影響を受けにくい、などの優れた特徴を有していますので、この特徴を活かした産業振興を検討する必要があります。 ビジョンには水質と底質の改善が記載されており、その方法について若干示されていますが、もう少し具体的に記述していただきたい。また、水質と底質の改善の目標を明確にする必要があります。その際、汽水域の魚や貝が生息できるようにすることを目標の1つにしていきたい。それが実現すれば、釣りや快適なボート遊びができるようになります。運河の区間によっては、ビジネスとしての釣り堀の営業や魚の養殖が可能になるかもしれません。水質と底質の改善は、生態系の再生とビジネスの創生のためには非常に重要ですので、ビジョンにこの視点を明記していただきたい。P17に「水門や閘門を活用した水循環等による水質改善について、関係機関と連携して検討します。」と記載されていますが「検討」ではなく是非、「実施」との記載をお願いします。	水門や閘門を活用した水質改善については、治水面の影響等についても考慮する必要があり、複数の関係機関との調整が必要なことから「検討」としています。 また、改善の目標については、検討結果を踏まえて設定してまいります。
50代・男	仙台湾の大きな湾流を鑑みた海水の循環と噴水により水質の浄化を図る。場所は調査・検討を要する。	今後の検討の参考とさせていただきます。
50代・男	貞山運河再生・復興事業にあたっては、運河の水質や底質の現況だけでなく水生生物の生息状況などを十分に調査し把握することが必要です。カニやゴカイなど水生生物は魚類の餌として、また鳥類の餌として多様な生物からなる生態系を育みます。宮城県では沿岸・汽水域の底生動物についてレッドリストを公表しています。 貞山運河の再生・復興事業にあたっては、これらレッドリストなどを参考にしつつ、多様な生物の生息場所を減じるのではなく、多様な生物の生息環境を保全して生物多様性をも涵養するという理念をビジョンとして盛り込むことを希望します。	本ビジョンの理念や基本目標に基づき、運河群を含めた周辺の自然環境を保全又は再生する取組を促進してまいります。
50代・男	第4節「目標とする期間」の短期(概ね平成27年度まで)において、迅速な復旧に主眼をおくのは当然ですが、その際には運河に生息している水生生物やその生息環境についての現況調査を踏まえたうえで関連事業との調整を図っていくことを指針として盛り込んでいただけないでしょうか。 「見える復興、見せる復興」はとても大切ですが、目にはふれない水面下の水生生物などにも思いを寄せることで、自然環境と豊かな生物多様性が保全できることを念頭に置くことも大切だと考えます。	目標とする期間に関わらず、本ビジョンの理念や基本目標に基づき、運河群を含めた周辺の自然環境を保全又は再生する取組を促進してまいります。
50代・男	貞山運河はエリアによって多様な景観や自然を提供しています。再生・復興整備により貞山運河が一面的で単調なものにならないよう、ゾーニングなどによりアクセントのある整備が望ましいと考えます。例えばカニ類などの水生生物には水界と陸上を行き来する生活史を持つものが多くいます。これら生物の生息には、運河から水辺、森林や水田あるいは海岸などと互いに繋がっていることが不可欠です。そこで、このエコトーンとしての繋がりを遮蔽・寸断しないようなエリア、例えば、運河を中心とした防潮林を含む両岸へ連続性のあるエコトーンを各所に配置するなど、ゾーニングを工夫すれば生物多様性を損なわず、むしろ涵養することが可能となります。遮蔽物のない海岸-海浜-森林-運河-水田という繋がりは、仙台湾岸を代表とする景観として、大変重要なものになるでしょう。また、全域にわたって、水際では可能な限り水生生物との親和性が高い整備の仕方を工夫するなど、整備にあたって多様な自然をも復活させる姿勢・方針を盛り込んで頂くようお願いいたします。	御意見を参考として、本ビジョンの理念や基本目標に基づき、運河群を含めた周辺の自然環境を保全又は再生する取組を促進してまいります。
50代・男	貞山運河は阿武隈川、名取川、七北田川、鳴瀬川と連結しており、河口部にある鳥の海、井土浦、蒲生干潟などの干潟は沿岸生物の生息場所として重要な生態系です。整備や工事にあたっては、運河との連結性を考慮し、これら沿岸域や干潟生態系の保全に十分に配慮することが重要です。整備事業の具体的な立案や推進にあたっては、干潟生態系や水生生物の研究者など有識者の持つ知見や意見を踏まえて行うことが望ましいと考えます。その点も、ビジョンの中に盛り込んでいただくことを希望します。	御意見を参考として、本ビジョンの理念や基本目標に基づき、運河群を含めた周辺の自然環境を保全又は再生する取組を促進してまいります。

●利活用や観光に関する御意見

意見者	御意見	対応
60代・男	<p>「世界中に知恵と資源を求めること」 長期的観点もあるが、歴史的(これから歴史を作るという意味での)観点が少なく、また、国際的観点がほとんど欠けている。県を中心とした推進会議で事業を進めるのではなく、事業そのものを国際的な事業として位置づけた方が確実に世界性(そして歴史的事業の評価)を得ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界中から「防災システム」と「景観デザイン」「地域デザイン」の提案を求める ・世界中に「資金、資材」の提供を求める ・このことにより「貞山運河・TEIZAN CANAL」は世界的知名度を持つ。県内でまとめたものを事後にPRしても広がり期待できない。 ・宮城県の仕事は「貞山運河・復興プロジェクト」の事務局として、歴史性・地域性を配慮した事業の全体フレームを作り、世界中に広報・PRを行い、このプロジェクトを「国際土木デザイン・オリンピック」とも言うべき事業に育て、そして、外部の意見を参考にコンペティションの「審査基準」、「国際審査委員会」をまとめること ・30年以上のスパンの超長期事業として捉える(アジア版サグラダファミリア教会建設) 	<p>具体的な方策等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考に、今後検討してまいります。</p>
団体	<p>貞山運河を地域産業の活性化のために活用するという視点は、これからの貞山運河沿川の地域にとって極めて重要と思われますが、貞山運河再生・復興ビジョン(案)(以下、ビジョン)ではそのような姿勢が明確に読み取れません。</p> <p>ビジョンには貞山運河の再生・復興と防災機能の強化という大きな2つの柱が示されており、これは大変結構なことと思いますが、これらの他に貞山運河を活用した産業振興をもう1つの重要な柱として加えていただきたい。新たな産業を興し、職域を形成し、雇用を生み出し、人口が定着するといった地域づくり推進の視点を強調していただきたい。ここでいう産業振興には、観光産業、1次産業、教育産業などが考えられます。産業振興のために貞山運河を活用する方策を十分に検討し、それを実現するには貞山運河の再生と復興をどのようにすればよいか、その方向性を記述していただきたい。</p>	<p>具体的な方策については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考に、今後検討してまいります。</p>
団体	<p>P19 地域特性を考慮した利活用の促進ですが、「人を呼び込むゾーン」の設定には、民間投資に頼るところが大きいと思われます。オープンカフェの事例の記載もありますが、より民間が投資しやすい環境整備を行うことを併せて記載いただきたい。さらに、投資を促進するような助成金等の各種優遇施策の実施も組織をまたいで検討いただきたい。</p>	<p>具体的な方策については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考に、今後検討してまいります。</p>

●推進体制に関する御意見

意見者	御意見	対応
60代・男	<p>貞山運河を世界に発信するためには、まず、この事業に関して、県の全組織が一体となる必要があると思います。「土木部 河川課」だけですすめられる事業ではないと思いますので、縦割りを超える事業としてトップの判断が必須だと思えます。元々「プロジェクト」には「組織横断事業」の意味があったはずですが。</p>	<p>本ビジョンに掲げる取組は、県だけでなく、様々な主体が連携して進めるものですが、御意見を参考に、推進体制を発足してまいります。</p>
団体	<p>推進体制は大変重要ですが、P22で『県関係部局、国関係機関、仙台湾沿岸市町、学識者等からなる「(仮称)貞山運河再生・復興推進会議」や「それぞれの分野に精通する活動団体や研究者等』』について具体的に想定しているメンバーは、どのような方々でしょうか？</p> <p>推進会議の推進組織メンバーは、行政、学識経験者に限定されているように見えますが、経済的な振興に資する民間投資を促進するためには、歴史や環境に関わる団体に加えて、民間経済団体など多様な角度から議論を進める必要があり、偏った考えに陥らないよう十分な配慮を望みます。</p>	<p>推進体制に含めるメンバー等については、御意見を参考として、ビジョン策定後に検討してまいります。</p>
団体	<p>モデル地区の設定について述べられていますが、これは非常に重要ですので、モデルの考え方やその実現の方法についてももう少し具体例に示していただきたい。</p>	<p>具体的なモデル地区の設定や整備については、推進体制の発足後に検討してまいります。</p>

●施設整備や事業に関する御意見

意見者	御意見	対応
60代・男	<p>散策路の設置について 堤防上のみでなく、捨石上面もしくは矢板上面小段に歩けるスペースを設け、散策路としてはいかがでしょうか。また、堤防には運河全体(松島湾を含む約60km)にわたる距離標を各地区で設置し、それを記したフットパスなどを作成(これは民間のボランティア等で作成するのがよいと思われる)し、自分がどこを歩いたかなどがわかるようにし、継続して何度も訪れ、運河全体の魅力を知ってもらおうようにしてはと思います。</p>	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考に、今後検討してまいります。</p>
団体	<p>貞山運河を活用した産業振興には思い切った施策が必要です。その際に基本とすべきことは、民間の資本、人材、ノウハウを積極的に活用することです。宮城県は、多くの工業団地を造成して育ってきました。それにならって、貞山運河周辺にたとえば観光団地のようなものを複数造成し、ハードインフラ、ソフトインフラ、法制度などの民間が投資しやすい環境整備を行い、ホテル、別荘、水に親しむためのレジャー施設などを誘致することなどが、検討に値すると思われます。この考え方をビジョンに含めていただきたい。</p>	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考に、今後検討してまいります。</p>

60代・男	<p>貞山運河がもつ潜在的な魅力を引き出し、できるところからはじめる。</p> <p>震災以前の貞山運河は自然環境とその歴史的景観に恵まれ、それだけでも魅力的でしたが、活用はあまりされていませんでした。世界中には運河の活用事例が数多くあります。その中で今回の復興に参考になるものがあります。そうした事例にいろいろなアイデアと地域の特性を加え貞山運河の復興にふさわしい計画をつくり、実現できそうなものから実施するのがよいと思います。「いま、貞山運河を考える」中にはすぐにもできそうなアイデアがありました、できるところからはじめることが大切ではないです。</p> <p>私は公園緑地の専門家として今回の復興計画には非常に興味があります。世界中の専門家も同じだと思います。私が見てきた中で参考になりそうな事例にエムシャーパーク・プロジェクトがあります。ドイツのルール地方で1990年代にIBAエムシャー計画によって地域自治体がエムシャー川の再生に取り組んだ事例です。この計画は10年間の期間に限定され、世界中から建築家、デザイナー、アーティスト、プランナー、ランドスケープアーキテクトなどが参加し、100のプロジェクトを実現し、年間数百万人が訪れる成功した事例です。ここから学んだことは、土地の再利用が困難な地域での再生です。貞山運河の再生も費用対効果などを考えると「被災地を再生して、どう活用するの?」「ガレキにする前に再利用できるものはないの?」「元に戻すだけでいいの?」など問題が数多くあります。新たな産業を生み出す復興プロジェクトとして、震災の記憶を残し、伝え、世界中が関心を持ってくれる、一から十へ転換する発想で価値転換を考えた事業として実行すべきです。</p> <p>その手法は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貞山運河と自然景観の融合を考え、被災地を自然に戻す。 ・斬新なデザイン手法を取り入れ貞山運河の魅力を引き出す。 ・津波によって破壊された跡を説得力のある記念公園、景観公園として、後世に伝える。 ・歴史的な運河を魅力ある土木遺産と新たな産業を生み出す施設(運河土木研究センター、新エネルギー研究センター)なども創設する。 ・防災機能をもつ土地のグレードアップやビオトープなどを併設した生態系環境を重視した宅地への転換を考える。 ・運河を活用した観光を考える。 <p>新たな意識(4つのC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンス(前例にとらわれない) ・コミュニケーション(交流) ・カルチャー(地域固有の文化) ・クリエイティビティ(創造性) <p>以上、地域に愛着を持つキーパーソンが必要と思います。</p>	<p>いただいた御意見や参考となる事例は、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、取組を展開していく際の参考とさせていただきます。</p>
50代・男	<p>仙台空港内の現ターミナル西側の公用車?駐車場に「震災記念館」を新設し、大震災当初から現在までの経過などを展示するスペースを整備し空港に着いた人が見学出来るようにしていく。また、館内には、「運河沿い及び松島の成り立ちや特徴」、「野蒜築港の資料など」及び「仙台北側の四谷用水(伊達政宗の水に対する意識の高さを全国民などに広報する)など」を展示する。</p>	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にして、今後検討してまいります。</p>
50代・男	<p>堤防天端に松並木か桜(海風に強い?＝海に強い種類の木)を植え、夜間クルーズ用の船からライトアップさせる。特にライトアップは、多賀城市～松島港中央棧橋の限定で考える</p>	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にして、今後検討してまいります。</p>
50代・男	<p>仙台空港や下水処理場などの重要な施設の海岸側に、津波防御を兼ねた半円状の突き出した広域な公園(規定の堤防に腹付け)とし、特に空港の場所では展望台となるような堤防として整備する。半円状の堤防公園で津波を減勢させ、重要な施設を防御する。(空港の箇所の半円状の堤防公園は海釣り公園と海から進入してくる飛行機が見える展望公園として整備するもの)</p>	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にして、今後検討してまいります。</p>
50代・男	<p>空港付近の運河と松島と石巻に船が停泊出来る場所を整備する。船は宿泊出来る船とし無料で泊まりを提供する。宿泊者へは宮城の食材を利用し食事を提供する。空港基地～運河クルーズ～松島湾～運河クルーズ～石巻間に船を運行し、各地で復興状況や観光地巡りをし、2～3日で仙台空港基地に戻る。塩釜～松島・奥松島間は、観光汽船会社などと協同で運行する。菜の花、牡蠣、展望、紅葉等々を味わってもらう。この過程で県民からの「心のおもてなし」を提供できるようにする。</p>	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にして、今後検討してまいります。</p>
50代・男	<p>運河を利用した運河クルーズで石巻まで行き、復興視察、ボランティア及び観光をし、再び仙台空港までのクルーズで帰ってくる。(仙台空港の乗降客数の増加、運河の利用、県内観光客の増加が見込める)場合によっては、平泉、蔵王及び栗駒などの隣接県の観光地とのコースを設定する。</p>	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にして、今後検討してまいります。</p>
50代・男	<p>運河クルーズは、金華山航路と奥松島航路などと連携し、観せる船の交通機関として、確立させる。</p>	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にして、今後検討してまいります。</p>

団体	<p>貞山運河の『貞山』は、伊達政宗公の諡号で貞山公由来の名前であったことを知っている人が少ないことを、震災後の被災者との話で気付かされました。</p> <p>現在の宮城の基盤を作った政宗公の偉業をしっかりと県民として、周知し貞山運河の再生をしていくのが私たちの努めだと感じました。司馬遼太郎の『街道を行く』に展開された光景のよると、貞山運河を利用して、江戸に仙台米が運ばれ、江戸で消費される米のシェアがNO1であったこと、更に仙台藩の発展は貞山運河の発展を抜きにして語れないと知ることができます。</p> <p>特に閉上は仙台藩の台所として、漁業を中心に発展し、震災で街は壊滅しましたが、街の復興は、観光の再生と発展が重要な要素になります。</p> <p>幸いに、ゆりあげ港朝市は、カナダの支援により5月4日に現地に復活し、また、県のグループ補助金により9月頃にはグランドオープンする予定です。閉上の観光地としての起点はできたので、それと相乗に展開できるよう貞山運河と仙台空港をリンクさせた周遊船は、株式会社仙台水産のご尽力により、北海道漁連と三重県漁連のご寄付により、閉上あさり、しじみの会に、船外機と舟とで十五隻あり、漁師さんたちも、貞山運河、広浦、ゆりあげ港朝市による周遊観光に前向きです。</p> <p>そのような状況でゆりあげ港朝市協同組合として、周遊観光が即時に実現が可能であり、次のように考えます。</p> <p>① 現在ある設備、施設使用、もしくは、今後早急に準備出来るものとして</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周遊船 十五隻 (救命胴衣50着) 2. ゆりあげ朝市会場に隣設した船着場 3. 貞山運河、閉上地区の津波の被害の資料展示 4. カナダの寄付によるメイプル休憩所、食事処、資料館 <p>② 今後、貞山運河再生時に必要なこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仙台空港に隣接する船着場 2. 貞山運河に周遊船の船だまりと、子どもたちが安全に足をつけて遊べる場 3. 貞山運河沿の自然散策できる遊歩道 4. 県立貞山運河資料館 	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で検討してまいります。御提案の取組については、地元自治体を含めて御意見を交わしてまいりたいと思います。</p>
70代・男	<p>地域活性化の視点を明確にすべきです。</p> <p>運河沿岸の地域が壊滅的であることはご承知のことと思います。この再生と復興は容易なことではなく、新たな過疎地を生む可能性が濃厚です。沿岸部の旧市街地と5km単位を目安に「再生・復興の先導的モデル地域」を設定し地域活性化を推進すべきです。</p>	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にして、今後検討してまいります。</p>
70代・男	<p>「再生・復興+産業復興地域」をセットとして取り組むべきです。</p> <p>かつて、「新産業都市指定」があったように、伊達政宗公が海外に目を向けたように、宮城県の役割はこれからの400年先を展望した産業振興は沿岸被災地をモデルとして取り組んで頂きたい。</p>	<p>ビジョン策定後の推進体制の中で、御意見を参考とさせていただきます。</p>
70代・男	<p>産業復興の目玉として「観光資源化」を図るべきです。省庁の垣根や宮城県担当部課の垣根を乗り越えなければ資源化は困難です。</p>	<p>ビジョン策定後の推進体制の中で、御意見を参考とさせていただきます。</p>
70代・男	<p>観光資源化の素材をご提案致します。</p> <p>日本一長い運河は歴史遺産ではありますが、無用の長物化していました。再生と復興の先に何かあるのでしょうか。住民は一部しか戻らないと思われま。運河は巨大なプールの様なものです。運河の小船から見た景色に感動を感じません。「景観の創出と動いて楽しむ仕掛け」が活性化の鍵です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り長大な「桜の回廊」を創るべきです。阿武隈川河口から名取川は両岸で植栽が可能で、桜のほかに四季の花を植栽すれば通年楽しめます。 ・閉上港赤井江を「観光港」にすることで運河と連携し近海への周遊コースが創出されます。 ・貞山運河ならびに五間川堀川の「要所に船着場」を設置することで様々な仕掛けが可能で、民間企業やNPOによる事業創出が期待できます。 	<p>具体的な事業等については、ビジョン策定後に発足する推進体制の中で、御意見を参考にして、今後検討してまいります。</p>

●文章修正に関する御意見

意見者	御意見	対応
団体	<p>P7及びP9に「集いの場」の再生」との記載がありますが、「集いの場」の具体的なイメージがわかり難い。P10以降の第3章にも、具体的にどのような場を指しているのか、記載がなく、震災で失った公共インフラの再生のことを指しているのか、新たな交流の場まで含めた場を想定しているのか、はっきりとイメージできるような加筆説明を記載していただきたい。</p>	<p>御意見を踏まえて、第2章第4節の記載内容を修正しました。</p>
団体	<p>言葉の使い方について</p> <p>「大津波の遡上を遅延する」は「大津波の遡上を遅延させる」あるいは「大津波の遡上が遅延する」ではないでしょうか。</p>	<p>御指摘の通り修正しました。</p>
団体	<p>表現について</p> <p>「同時期に建設が始まった貞山運河」とありますが、貞山運河の開削開始は1597年、慶長遣欧使節出帆は1613年ですから、これを同時期と言うのは違和感があります。たとえば「出帆の16年前から建設が始まった貞山運河」というような表現はどうでしょうか。</p>	<p>貞山運河の建設は、慶長遣欧使節出帆と同じく仙台藩主伊達正宗の命により始まったと伝えられていることから、同時期という表現を用いることとしております。</p>

●その他の御意見

意見者	御意見	対応
50代・男	<p>運河は、南北そして東西に「線」と「流れ」で成り立っており、これを特徴に考えるべきである。宮城県の海岸の顔は二つあり、運河に沿う南側に位置する「遠浅砂浜の海岸」と北側に位置する「リアス式海岸」から成り立っている。前者の海岸に沿って運搬路、水文化となっていることを表現出来るようなことを考えていくべきと思う。</p>	<p>御意見を参考とさせていただきます。</p>
50代・男	<p>「トモダチ作戦」や「ボランティア作業」などで、大震災後に県内に入った人たちとの深い友情を今後も繋げていけるように招待し、県内の現状と復興状況を視察してもらう。一番大切な「絆」を保持していく一助にしていくものである</p>	<p>ビジョン策定後の推進体制の中で、御意見を参考とさせていただきます。</p>